

# 第 14 期 pES club step4 大会医学生シナリオ

平成 27 年 6 月 28 日

東京北医療センター 総合診療科

南郷 栄秀

<http://spell.umin.jp>

あなたは、海老伝巣医科大学附属病院の 1 年目後期研修医です。

蓑賀佐礼太さん（58 歳男性）は、ひと月前から胸の違和感があり、当院外来を受診しました。その後、胸部単純 X 線と胸部単純 CT の撮影を行い、今日はその結果説明の外来です。検査の結果、左下葉に 3.5cm の腫瘤を認め、放射線診断科の読影では、肺癌であり、同側肺門および縦隔リンパ節転移がみられるので Stage III B と診断されるとのことでした。

ふと過去の写真を見てみると、1 年前にも胸部単純 X 線と胸部単純 CT が撮られていました。今回の病変部位に 5mm ほどの結節影が写っており、その読影結果には要精査、経過観察と書かれてありました。しかしカルテを見直すと、そこには「CX-p：異常なし」とのみ書かれていて、精査をした形跡もなく、経過観察のための外来予約もなされていないようでした。

蓑賀さんに検査の結果を説明して下さい（10 分間）。